

第3回 米沢産業高校（仮称）教育基本計画策定委員会 記録（概要）

- 1 日時 令和2年11月25日（水）14：00～15：30
- 2 会場 あこや会館201会議室
- 3 参加者 委員長（座長）、委員8名（別途1名は事前に意見を聴取）
- 4 内容

- 1 県教育委員会あいさつ
- 2 報告
 - (1) 第2回教育基本計画策定委員会の概要
 - (2) 学校視察（村山産業高校、酒田光陵高校）について
 - (3) その他
- 3 協議
 - (1) 基本理念（案）
 - (2) 開校予定年度と入学定員等（案）
 - (3) 設置課程・学科の目標及び教育課程（案）
 - (4) 移行期の対応（案）
 - (5) 施設整備計画（案）
 - (6) 開校に向けた準備組織及びスケジュール（案）
 - (7) その他

5 発言要旨

2 報告 事務局長より説明

(1) 第2回教育基本計画策定委員会の概要

質問等なし。

(2) 学校視察（村山産業高校、酒田光陵高校）について

質問等なし。

(3) その他（意見聴取について）

質問等なし。

3 協議 部会長より提案

(1) 基本理念（案）

（委員）

基本理念から、育てる生徒像、目指す学校像、教育目標へと進むにつれて、基本理念が具体化されていく様子がよく分かるものとなっている。

（委員）

よくまとめられており、特に3つ目の「持続可能な社会」は行政としても大きな課

題と認識しており、米沢市も新しい高校と連携して取り組んでいきたい。

(委員)

基本理念から教育目標まで系統的につながっており、分かりやすい。

(委員)

小学校や中学校においては、学校教育目標が学校教育の基盤となっており、それを踏まえて、育てる生徒像や学校像が示されている。一方、この教育基本計画では、基本理念があり、その後育てる生徒像、目指す学校像、教育目標という形で構成されている。教育基本計画の基本理念は、開校にあたりどのように用いられるのか。

(事務局)

教育基本計画の基本理念を基にして来年度以降、開校整備委員会で具体的なプログラムを作成し、学校の特色づくりを行う。校長が教育基本計画の基本理念等を大切にしながら、学校経営的な観点も含め、教育目標を定めると考えている。

(委員)

基本理念は、全日制、定時制共通のものであるが、育てる生徒像、目指す学校像、教育目標について、全日制と定時制でそれぞれ異なるものにしてしている理由を、簡潔でよいので記載する必要があるのではないか。このままでは、1つの学校であるのに、2つの学校があるような印象をもつ人も出てきてしまう。

(委員)

昼間定時制に入学する生徒の姿を念頭に置き、育てる生徒像、目指す学校像、教育目標がつくられていることが伝わってくる内容となっている。

(委員)

目指す学校像にある、社会とつながる実践的・協働的な学びという視点は、これからのまちづくりにおいても大切な観点であり、今後検討される実際の教育課程に反映させてほしい。

(委員)

目指す学校像の内容が、学科の目標及び教育課程の部分で具体化され、しっかりつながっており、分かりやすい。ただし、全日制の目指す学校像の①ウについて、「チームで働く力」という表現は「協働する力」など他の表現でもいいと感じたが、敢えて「チームで働く力」を用いた理由は何か。

(事務局)

ウに示した「チームで働く力」を含む3つの力は、経済産業省が、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な基礎的な力として提唱した「社会人基礎力」を参考にした。全日制は専門学科であるため、社会人基礎力は特に育みたい資質・能力であり、重要な視点であると考えた。

(座長)

読んだ方にとって、違和感のない表現が一番であるため、文言については再度検討してほしい。全体として、委員の方々から賛同が得られたので提案の通りとする。今後、文言の修正等がある場合には、次回の策定委員会に提案をお願いする。

(2) 開校予定年度と入学定員等（案）

質問意見等なし。原案の通り承認。

(3) 設置課程・学科の目標及び教育課程（案）

(委員)

工業に関する学科の名称「機械創造科（仮称）」について、他の学科名と比較すると「創造」という言葉が他と違った印象を受ける。もう少し具体的な教育内容を盛り込んだ名称とするなどできないか。

(委員)

工業に関する学科の「機械創造科（仮称）」について、大変工夫されており、思いが伝わる名称だと感じたが、他の学科の名称とのバランスを考えると確かに違和感がある。加えて、10ページの全日制の教育課程の特徴に記載されている、総合選択制、専攻科について、一般の方から理解してもらうには、もっと丁寧な記述が必要と感じる。また、総合選択制は新しい学校において目玉になると感じているが、この程度の記載でいいのかということと、専攻科について、現在については、7ページに記載があるが、新しい学校における扱いはどうなるのかについて説明が必要ではないかと感じた。

(委員)

全日制の教育課程の特徴にある「地域や社会に参画する学び」の内容について、地域に参画し、活力を生み出すという観点はよいが、その観点だけでは内向きの印象を与えかねない。これからの生徒は、米沢市、置賜地区内で働いていても、海外と取引し、オンラインなども利用して、どんどんグローバルな舞台上で活躍することになっていくと考えられる。地域から更に世界につながっていくイメージにできないか。

(委員)

スマートフォンのアプリケーションを学習したり、新たなものを開発したいと考えたりした場合、工業科にある電気情報科、商業科のビジネス情報分野のどちらで学ぶことになるのか。

(部会長)

工業の分野においては、電気情報科になる。また、このようなアプリの開発においては、商業科の生徒がこういうアプリがあったらいいと考えて企画し、工業科の生徒が試作したものを、商業科の生徒が実際に使い、使いにくい点や改善点を指摘し、工業科の生徒が改良を加えるなど、工業と商業が連携・協働した教育活動が実践できるのではないかと考えている。

(委員)

今後、アプリケーションの開発などソフトウェア業界を目指す生徒が多くなり、情報通信分野が産業の中心にもなると考えている。工業と商業の連携により両学科の長所を高められることが新高校の強みだと考えるため、是非このような連携を行ってほしい。また、定員は機械創造科（仮称）が80名、電気情報科（仮称）が40名あるのは、ソフトよりもハードの分野の方が求められる人材が多いということか。

(部会長)

そのように考えている。

(委員)

これからも、ハード面のものづくりは大切な産業だと考えるが、ソフト面は、今後ますます重要となってくる。今後、社会で求められる人材に応じて、小学科の募集人数は柔軟に対応してほしい。

(委員)

定時制の学科の目標に「ICTの活用」とあるが、様々な事情により学校に来ることが難しい生徒に対し、オンラインで授業を提供することも考えているのか。

(部会長)

現時点では、情報の収集や発信、AIを活用するなどして、個に応じた演習などの実施を想定している。

(委員)

定時制の系列は「教養系列(仮称)」、「産業系列(仮称)」としているが、中学生にとって分かりやすく、イメージしやすいネーミングを検討していただきたい。また、「学び直し」の時間などがあり、非常に楽しみである。この20分程度の学び直しの時間は、通常の授業の他に、別途時間をとるということか。

(事務局)

別途設ける予定である。庄内総合高校では、通常の授業は全日制の3時間目の時間から始め、午前2時間、午後2時間の授業であるが、授業開始前の20分間学び直しを実施し、修得単位数に含める予定としている。

(委員)

20分の短い学習時間で、どのような効果が期待できるのか。

(事務局)

首都圏で学び直しを重視している学校からは、短い時間だからこそ、多くの生徒の集中が途切れないことや、その後の授業の導入として有効だとの報告がある。学習時間に関しては、全国的に様々な例がある。

(座長)

全体的に反対意見はないようなので、原案の通りとさせていただく。なお、文言の修正、用語の説明、学科の名称等を含め、班会で検討し、次回提案をお願いする。

(4) 移行期の対応(案)

質問意見等なし。原案の通り承認。

(5) 施設整備計画(案)

(委員)

令和7年度に両校が統合し、全日制、定時制の両課程が現米沢工業高校の校舎で学ぶことが可能であれば、定時制が現米沢商業高校の校舎へ移転せずに、令和8年度以降も現米沢工業高校の校舎で学ぶことが可能ではないのか。

(事務局)

定時制を独立校舎にする必要性については2点ある。一つは、令和8年度から昼間に移行するため、全日制と学習時間帯が重なり、体育館など施設の共用が難しくなること、もう一つは多様な生徒が入学してくることを考え、落ち着いた学習環境を提供したいということである。

(委員)

令和8年度から、現米沢商業高校に使用されない校舎が出てくるということか。

(事務局)

築年数の浅い校舎を中心に、改修して使用することを想定しており、現在の校舎の全てを使用することにはならないだろう。ただ、一体化した学校経営の観点から、全

日制の部活動などで定時制の校舎を活用することも考えられる。これについては、今後、具体的に検討することになる。

(委員)

統合後、米沢工業高校と米沢商業高校の校舎を行き来するため、公共交通機関が必要となると想定しているのか。現在、米沢市で地域公共交通計画の策定に向け協議しており、必要であれば両校間の移動について検討したい。

(事務局)

校舎の利用に関しては、今後の検討となるため、公共交通機関が必要となるかは現時点では未定である。

(委員)

PCを使用する特別教室や専門的な教室をつくるなど大規模な改修になるのか。

(事務局)

全体の構造を大きく変えるというような大規模な改修を想定しているわけではないが、現米沢工業高校に商業の実習室等、商業教育に必要な教室を整備することは必要だ。詳細については現在検討中である。

(座長)

これから教育課程を検討する中で、どのような形で工業と商業の学びを融合するかなどの検討が進めば、また新たな連携・協働が出てくることも考えられる。施設については、学びの内容と関連づけて検討して行ってほしい。

(6) 開校に向けた準備組織及びスケジュール (案)

質問意見等なし。原案の通り承認。

(7) その他

(委員)

高校では校訓や校是が重要視されており、そこに学校が目指す姿が示されていると感じる。教育基本計画に校訓は盛り込まれるのか。それとも教育目標のように、校訓も学校経営の具体的なものとして位置づけられていくのか。

(事務局)

教育基本計画は、その学校の基本コンセプトや地域における普遍的な役割等を示したものであり、校長により変化するものではない。教育基本計画の基本理念を校訓としている学校もあるが、多くの高校の校訓は、これまで様々な背景の元でつくられてきている。校長が教育基本計画を踏まえ、学校経営の視点を加えながら校訓をつくるなど、必ずしも教育基本計画の基本理念がそのまま校訓となるわけではないと考えている。